R-18
for adult

ねえ……
ん？

いつからかしら
私からぬえが
離れていったのは

ああ……
そういえば

前までは、

ずいぶんムラサに
懐いてたね

まあ、私には
元々生意気だった
気もするけど
ﾈｷ

……そう……
昔は……もっと

いわゆる反抗期なんじゃない？
ていうか環境もあれから変わったし……
ま、仕方ないんじゃないですかね
——あのとき、地底から船を出したとき
彼女はもう、私を、
必要としていないのだと思っていた

退治され、

ぬえが私の
手元に来たあとも、

彼女の存在は
あれもこれもと
情報を喰らって、

私達と比べものに
ならないほど
大きくなっていく。

あんなに
尻尾を振って
きていたぬえは、
距離を取るように
なった

——孤独を
選ぶことに
したのだと、
思っていた。

私達には、
聖が必要だった——

燃料を片道ぶんだけ積んで、
聖輦船を動かした

……ぬえを置いて。

ああ、なんて、ひどいことを。

違う理由も
あったようだけど、

再会した彼女は
とても申し訳なさそうで、

でも、
置いていかないで、
という目をしていた

それでもやっぱり、
昔のように
抱きしめさせては
くれなかった

私だけを
見ていてほしいのに。

ここは、
地底と比べて
広すぎる。

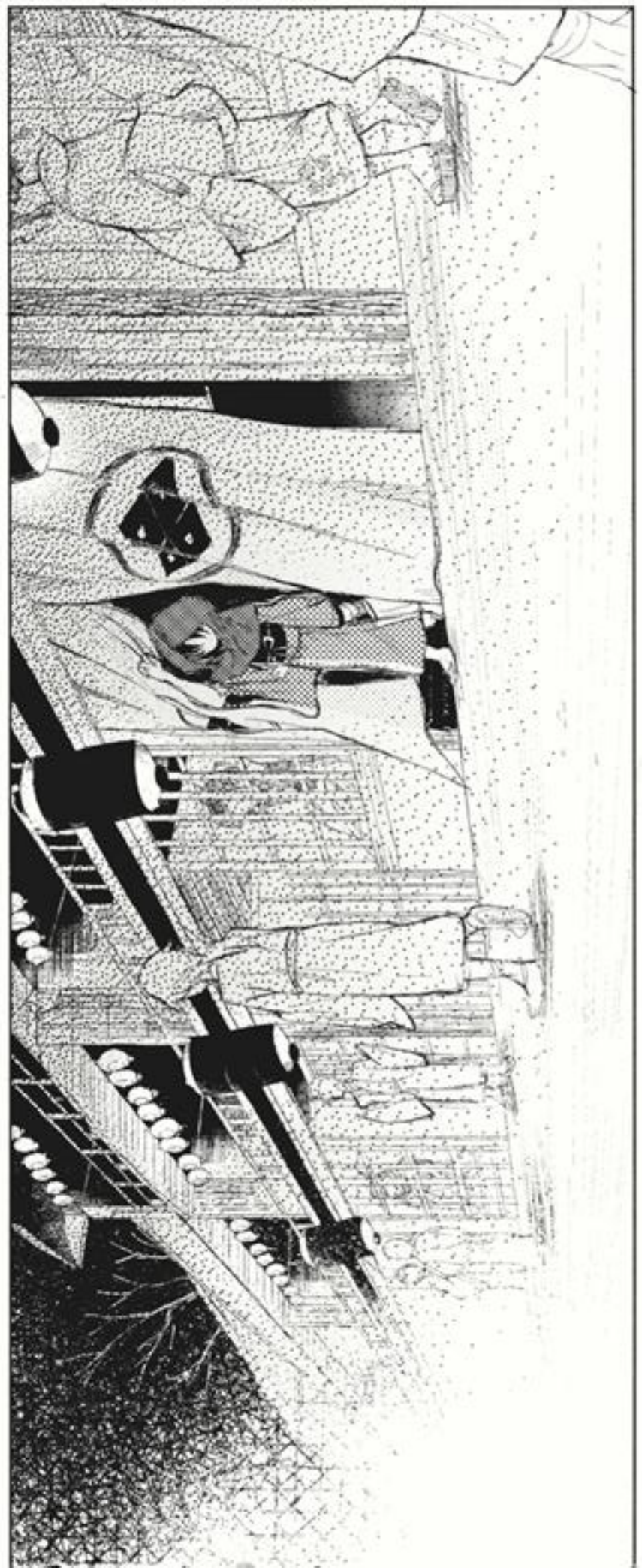
愛しい聖を
はじめとして、

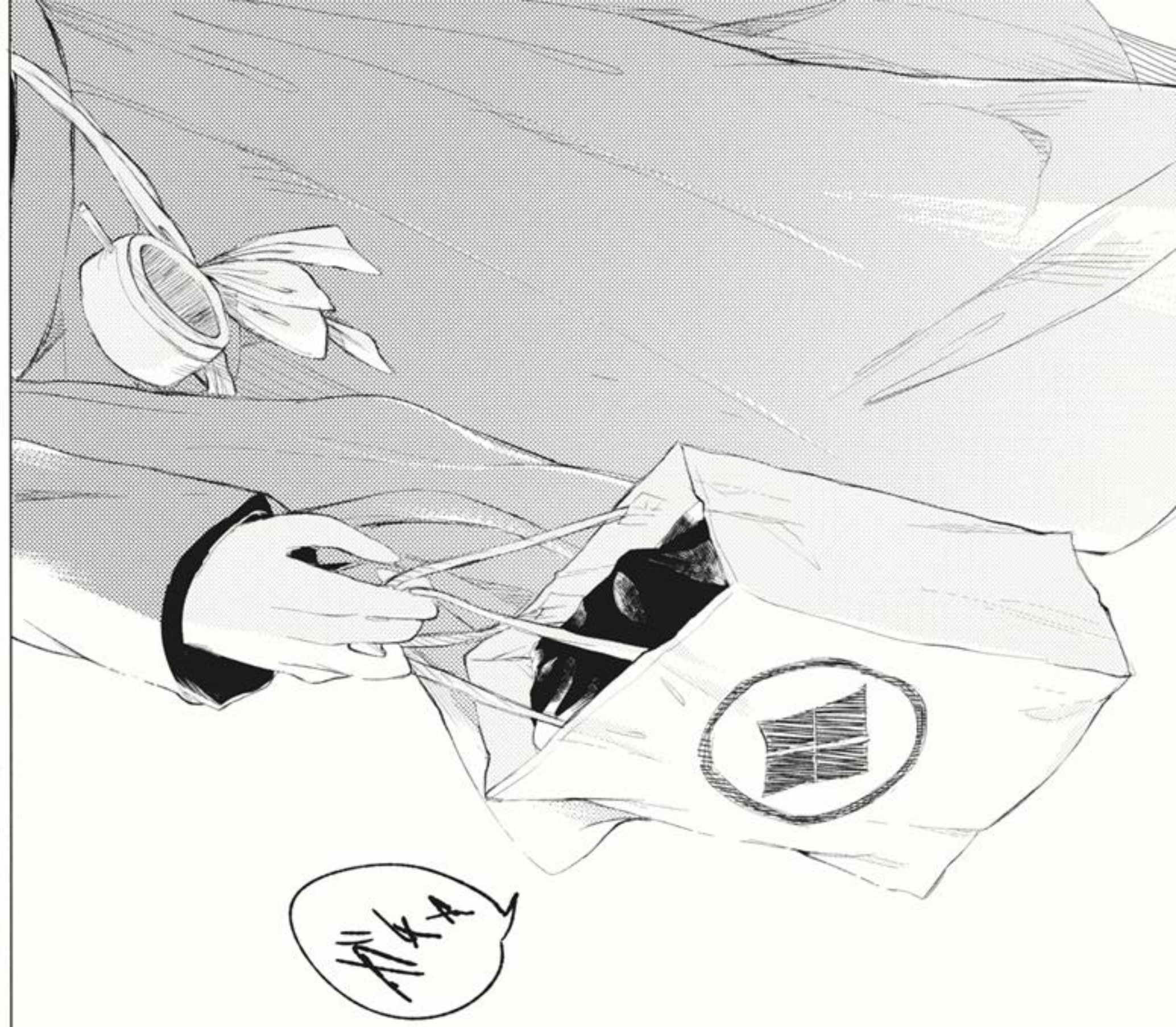
彼女を
うけいれるモノは
たくさんある

——もっと遠ざかる、
私が沈めたのに、

浮かんでいかないで、
ちゃんとここにいて、

――昔より、もっと深く沈めたいと、
そう思うた。




ガタッ

拘束具と沈む

——村紗水蜜は封獣ぬえを愛している。
封獣ぬえは村紗水蜜に恋している。

『恋に溺れる』

そう、私はあるイミ、恋に溺れているんだ

……たぶん

こ、恋に恋してるってりうか……？

苦しいの？

女の子みんなの憧れだぜ

まあ、苦しくはないだろうな……だいたい

苦しくないのに溺れるの？

そ、そういう表現あるだろうが！

まあ、お前ら妖怪とか動物とかは、そういうのないみたいだし分からんだろうけど

……そうね

――ええ、よく分からない

交尾をして子を成せばいいだけの話でしょう

妖怪(わたしたち)はそんな必要もないから…交尾もよく分からないけど

こっここ交尾ってなぁぁ～

カァ～

？ 顔が赤いよ

な、なんでもなりっ

もういいだろ帰れ

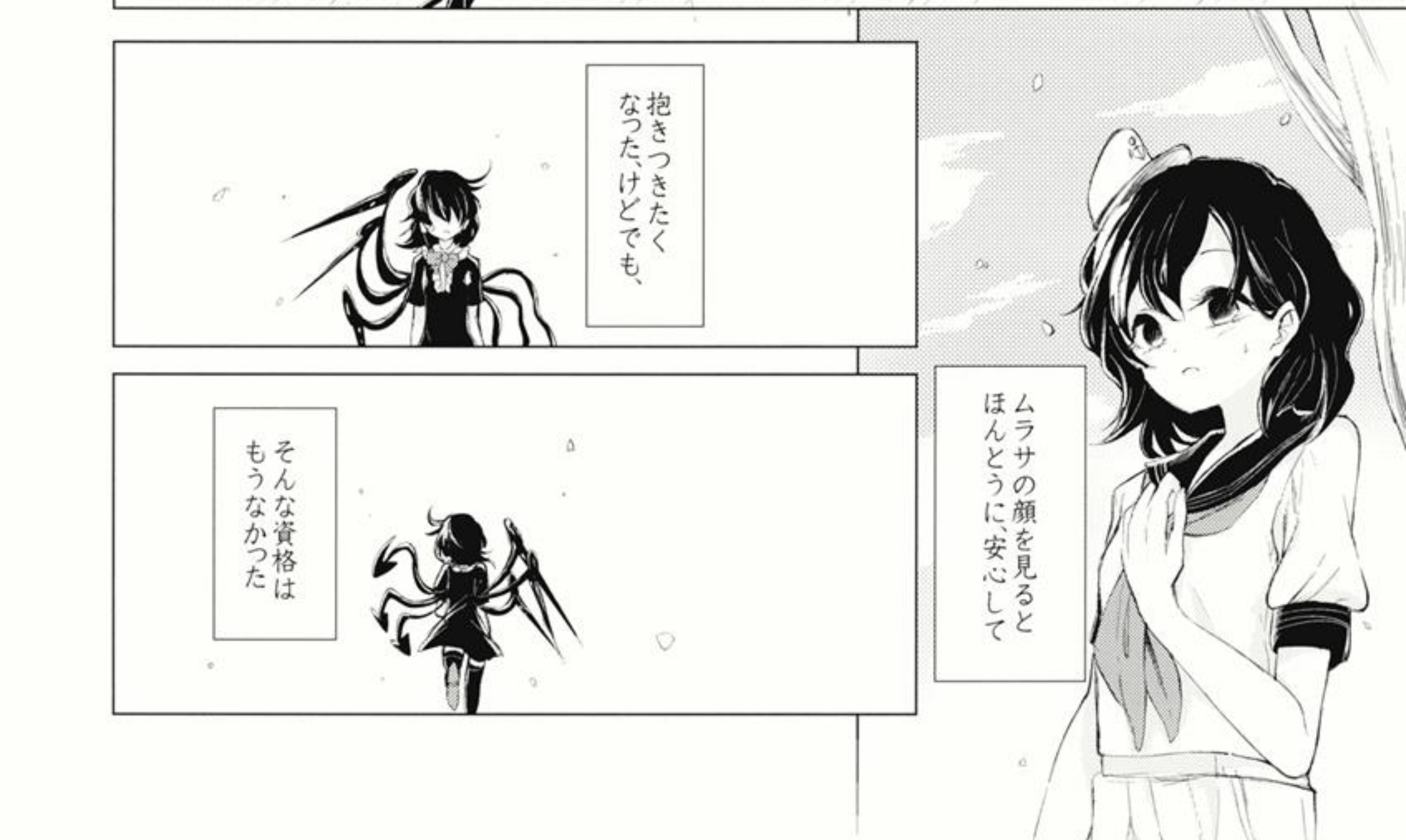
恋かあ……

魔理沙は恋が好きみたいだから、
少し訊ねてみたけど。
そんなに重要なものなんだ

——恋
なのかもしれない、
と思う

なんで
あんなことをして
しまったんだろう

私なんかを介抱してくれた
ムラサとその付き合いで
仲良くしてくれた一輪は、
私とはどこか距離がある
のが段々分かってきて、
……いや、私みたいな大妖
が一緒にいるような
存在じゃないんだ。
なのに。



あいつのことを考えるとドキドキする
傍にいると幸せになる
いつからかしら、こんな気持ちを抱くようになったのは……
人間でもなく種族が違う上に性別は同じなんて、本当に恋と呼べるのかしら、
私はとても、おかしいんだろう
そう、あいつも——
——ぬえ

ム、ムラサ……

ほんとうにあなたはいつでも自由時間ね

ス

え？
何かの行事でもあるのかしら

……
今日も、晩には出掛けるの？

いえいえ、ただ、ちょっとお話があって
――寝る間も惜しみたいぐらいの、ね
……怒られるんじゃないの
白蓮に
そうね……ちょっと悪い子になろうと思うの
今日から
でもぬえの能力なら、
部屋の明かりも、音も、いつも通りでしょう？
日頃からお前が一輪とかと騒いだりしてなかったらね
大丈夫だろうけど
よかった
じゃあご飯のあと、私の部屋に来てね？

――ムラサは、気持ちを隠すのがうまいから……
何これ
飲んで
飲むけど私だけ？
私は別に気持ちよくなれなくてもいいもの
ああムラサは酒好きじゃないもんね
ってあれ？お酒と違うじゃない
話ってなに？寝る間も惜しんで、って
能力は使ってくれてる？
ええ
じゃあ思う存分声出してくれていいからね
お前は唐突すぎて私は何も言えないよ
一晩中独り言でも言うつもり？

そんなわけないでしょう？

ね、ぬえ、

……セックスしましょう

きゃッ

なッ

な、なんて？

前のことじゃ、

ストタ

ど……どうしたんだよ

……え？
力が、

大丈夫、
はじめてでも
気持ちよくなれるのを
選んだわ

え
ぁ
ム、ムラサ、
あの、

なにを、

んんぅ

はん
んッ
ふぅっ

ぶは

はっ……
はぁ
はぁ

ゾクッ

？
？
はぁ
はぁ
ずるい

本当に無知なのね

この子は違う世界に介入するのに慣れてないから

私が教えたこと以外あまり知らない

ーーずっと、私だけ見てればいい

ぁあ

な、なに、これ

はー

セックスっていうのはね

はー

交尾みたいなものだと思ってくれればいいわ

こ、交尾って、異性同士でするんじゃ……

そんなことないわ

しゅる

子供はできないけど、すごく気持ちよくなれるのよ

ぷちぷち

あの、服、なんで、

ほんとに綺麗な身体

や、やだ、傷があるのに……

それも含めて、よ

んっ

あぅ

ぎゅ

ずっと遺る傷をつけた男は羨ましいけど

くり

やっ

やんッ、

こんなことはされてないでしょう？

むにゅっ

ぐりっ

こっ

こんなのっ

ッはぁ

しらな、

ねえ、なにこれッ、むらさぁ、あん

ぷはっ

よかった

私だけのモノね……

ぎ

あ、あ、

はぁ

もぞ

ぱっ
ふ
ふぅ
あんっ
びくっ
ぬえ
ね、ここ、どうかしら
はぁっ
あっ
うぁ、
やっ
そっそこ変になっちゃう、
ふぁ、やめて、
下着、もうびちょびちょね
おなかの下のほうずきずきする？
はぁ
あ、あつい、

すぅっ

もっと……

気持ちよくしてあげるから

やだ

むらさぁ、こわい、もうやめて……

ぺろ

あなたは何もしなくていい

全部私に預けて、甘えて、

快楽に浸っておけばいい

ぐりぐり

どくんっ!!

ん

んぅ

ちゅ

ぷは
あ
あぁッ
ふ
ずぶ
ずぶ
ビクッ
んっ
んぅ
ずぶっ
ずぶ
ずぶ
ずぶ
んっ
ふうっ
んぁ
ぐちゅ
こら
声我慢したら
嫌いに
なっちゃうわよ？
……っあ
わたし、
やだ
いや
むらさっ、
あふ
あん
あっ
は
あうっ
ぞくぞく
ずちゅ
ちょっとだけ
痛いかも
しれないわ
すぐ慣れるから、
我慢してくれる？
はあ
はあ
はっ

あん
はっ
痛くない？
へっへい、き、
ッはは
はぁ
ぬぅ
よかった
むむらさなんか、
はッ
あう、
ぺト
イきそう？
はー
……とってもかわいいわ
私のぬえ

朝まで
かわいがってあげる

明日も
明後日も、
ずっとずっと……

こうして
溺れさせ続けて
あげれば。

いつかきっと、
私なしでは生きていけない、
か弱く愛しい
私だけの愛玩動物になってくれる。

私は世界の文明である。

私は、
ムラサの
あの表情が好きだった。

あの、
どこか遠くのものを見るような。
——否、今思い返すと、
遠すぎて見えもしないものを
想うような。

想うだけで——でも幸せそうだった。

距離はただの
隠し事だったと
やっと気付く
まで、彼女にも
そんな対象が、
いるなんて。

そしてそれを私は、
もっと遠ざけようと
してしまったから。

私には報いが必要である。

封獣ぬえは
村紗水蜜が好きである。
村紗水蜜は
聖白蓮が好きである。

ムラサ達は
法界から帰るつもりは
なさそうだった、
と、魔理沙は言っていた。

私は必要のない存在なんだ。

毎日繰り返されるこの行為は、罰なのだ。

ぐ

やはずかし、

おしりでも気持ちよくなれるようにならないとね

そのほうが得でしょう？

ちゅ
——ムラサが私のそばにいて、私のことを見てくれて、
ハチチ
機に乗じて少しだけ甘えられることが、うれしい。
すり
……セックスはいらない。

——ああ、
幸せなんて、
感じちゃいけないのに……

——全然、
甘えてくれない

甘味亭
それにしても……
ぬえ、最近――

メスくさくなったよのう

わ、割らんでよかったな

メスくさいってなんだよ

そりゃ～もう！

幻想郷中、あの鶴がなにやら毎晩しっぽりやっとるというウワサで持ちきり

いや嘘じゃすまんぞ

儂ぐらいしか気付いとらんよたぶん

死ねっ

しかしお前みたいなのでも交尾はするんじゃの

胴は狸というし儂らとなら子を成せるかもな、ふぉっふぉ

死ね!!

チラ

ムラサが男なら、
私も――

……いやいや
だから
種族が
違うって
いや
そういう
問題でも
ない！

……で
踏み込みは
せんが
うまく
いっとる
のか？
……あれは、
うまくいくとか
そういうのじゃない

……？
複雑そうじゃの
あ、あいつの
ことは、うん
本当に、好き
なんだけど
……事情があって、
その、存分に
ああ、
甘えられない、
とか言うんじゃろ

ぬえは随分と分別の付けられる奴になったよのう

じゃが真面目すぎるのもいかんと思うぞ

……

妖怪なんてやりたい放題、何をしようが謝りもせんそんな奴ばっかりじゃろ

お前は如何せん考えすぎる

私には、最近……機嫌が悪いように見えるわ
……言い難いことですけれど
私――どうしても、欲しいものがあるの
あなた

欲を消すのは至難の業

仕方のないことですわ、ムラサ

聖は

そんな悩みがあったことがありますか

もちろん

死への恐れ

生への執着

それが無ければ、命蓮寺を建てることも、あなたをすくうことも、無かったわね

そしてその執着を生んだのは命蓮への執着——

永遠に……かなわない。

それで、いい

……弟様

本当に、大切だったのですね

ええ

出来ることなら、もう一度――

いえ、なんでもないわ

信濃にいつまで経っても帰ってこないから

耐え切れなくなって後を追って

お告げまで頂いて

二十年以上の時を隔てて再会したと思ったら――

生き返らせようと術を学んだけど

反魂はそのとき、方法が確立されていなかった

不完全なあの子なんて見たくなかった

そのうち、私を置いていった弟への恨みより、

あのかわいい弟を奪った死への恐れが大きくなって、この有様よ

聖

……喋りすぎましたね

ぎゅ

でも結果あなた達と出会えたのはほんとうに、よかったわ

ムラサも、ありがとう

……どうしても

どうしても欲しいものがあるなら——

なくなってしまう前に、
鍵付きの籠に入れておくのが――

……失言だったわ、忘れて

まったく

鵺さんは
どこに旅行に
行っちゃったのよ〜

ずっと帰って
こないじゃない

そんなことないわ……

あの子は強いもの

マミゾウに聞いても、それくらいで気に掛けるなんて優しすぎなんて言われちゃいました

まだ数週間か数か月かですものね

それってまあまあ長くなあい？

適当ねえ

幻想郷では時の流れが遅いようにも感じるけど

ぬえは我々ぐらいは生きてるし、散歩ぐらいの気分だと思うわよ

まあ――

仲の良いムラサも
心配してないことだし、
きっと大丈夫でしょう

恋のお味は♪
どうかしら♪

ただいま、

ぬえ

……

外のことは何も気にしなくていい

もっとここにいていいのよ

——もうずっとここにいる気がする。

許して、なんて、愚かなことは言えないから。

飽きて捨てられる、そのときまで。

今日はどうする？

目隠しは、あなたは気持ちよさそうだったけど、

私がぬえの顔見れなくて嫌だから、今日はやめさせてね

っあ
はぁ
ぐり
はぁ
ふぐ
うぅ
はぁ
はーっ
もう息が
だいぶ荒いわね
ずっと
触りたかった
だろうけど……

ぬえは
いい子だから
何もしてない
わよね？

ただのファッションとでも
思っているのかしら
ムラサが着けてくれた
首輪なら、どうせ
壊さないんだろうけど
お前が考えてるより、
ずっと私は
弱ってるのよ……

本当にかわいいわ、
私のペット

ぐい
——ほんとうに、妖怪が恋なんて、するものじゃない。

今日は獣らしく
なりましょうか

……

……もうちょっと焦らしたほうがいい？

ぶく

ぱっ

にぎ

それとも、自分でしてるとこを見ていてあげましょうか

そうよね

私がしてあげないとね

……ふふ

顔だけじゃなくて

こっちもすごく物欲しそうにしちゃって

かわいいわ、ぬえ

ぷは

あ、

んっ

んぅ…

ふう、

はあはあ

♪
こっちも
なんでも
挿れられるように
なったわよね
えっちな子
あっ
あん
はぁ
はぁ
やっ
あっあ
はぁ
あんっ
ッ！
まだ膣には
何もしてないのに
すっかり
気持ちよく
なっちゃって
はぁ、
でも、
もっといい声きかせて、
ね、ぬえ

ぱた
カチャ
そ
それ使うの
……
ガチャ
ガチャ
ス
ええ　好き？
この道具は
私への
あてつけだ、
お尻
こっちに向けて
挿れるわよ
ぐり

あっ
うぁ
は
はん
や、
あぅ
っふぅ、
ほんとうに、
ムラサは私のことが、嫌いなんだと。
それで頭がいっぱいになって、
どうしようもなく心が締め付けられる——
はっ
いやぁ、
んぁっ
むらさぁっ
こら
ねえ、逃げちゃだめよ
うえ、
はっ
やだ、
やだぁ、
ぐ…

だめだ、
うけいれなきゃ、
わたしは……

ガチャ

カチャ

よいしょ

ガチャ

はあぁっ

ぐりぐり

何回達したら
こんなに
濡れられるのかしら

ふーっ
ふーっ

お、
おく、
あたって……

んうっ

こんなに
嫌なはずなのに、

あっ
あんっ

はん

それをムラサも
望んでるのに、

こうやって細い指を、
冷たい舌を、柔らかい肌を、
ムラサを感じれるのを
とても嬉しく思ってる
自分もいて。

私は——

うぁ、

——最低だ——。

ガズ

……え、

あ、

あら
これぐらい
ご

ごめん、
むらさ、
ごめんなさい、
ごめんなさい
ごめんなさい
ごめんなさい

——え

ああ、
わ、私どうすれば
いいの、
何すれば
ゆるしてくれる、
こ、れ以上
嫌われたら、
わたし、

……いいのよ、

ガチャ

ちゅ

私もつけたげる

……

——こんなペット、もういらないだろうなあ……

……ごめんなさい、

……ぬえ、

ねえ、ぬえ、

あなたは、私のものに、なって、くれないの？

……え

受け容れてくれたの、気持ちいいからとかじゃなくて

……怖いだけなのね

やっぱりひとりが好きなの？

私のこと嫌いになっちゃったの？

——もう、溺れてくれないの？

むぅ、らさ

あなたならずっと手元にいてくれると思ってたの、でも、

あろうことか私から突き放してしまった、

ごめん、ごめんね、ぬえ

……なんでムラサが、なにを謝るの……

……ああ、そうね、元々私のことなんてどうでもよくなってたなら、謝る必要なんて

なんで！

わ、私、その……

ほんとはムラサのそばにいたかったのに、見栄張ってただけで……

でもぬえ、あれからもずっと私のことを見てくれなかった

私にそんな資格……ないもの

ぐ

罰は、ずっと受け続けるわ

……罰？

……まだまだ辱め足りないでしょう？どれだけのことをしたかぐらい、私みたいなのでも分かってる

……え、あ、私……私、そんなつもりじゃ……

ぬ、ぬえは何も悪いことしてないじゃない……

……ッ私なら——

——私なら、

誰かにムラサをずっと遠くにやられたら、そいつを絶対に許さないッ!!!

ぽかん

……あ、
え、っと

あの……

クス

……そんな、

ぎゅ

嬉しいこと、
言ってくれ
ちゃって……

そこまで、私のこと
想ってくれてたなんて

ありがとう、ぬえ

ぎゅ

私ね、聖のことも大切だけど、ぬえのことももとっても大切なの

だから……追いかけてきてくれて本当に嬉しかった

ぇ

ぇ

何も悪く思わなくていいの

ほんとうにかわいい子

勘違いしちゃってて、ごめんね

か、かわいくない……

私のほうこそ、んぅ

あなたは、もう謝るの禁止

ええ……

嫌だったのなら、

いえ、

なんでもないの

……

虫刺され
ただの
……
マミゾウの言う通りだったよ
……
お前がそれでいいなら
何も言いません

ぱしゃ
ムラサ
ぬえ
一緒にいても――
……どうしたの？
いえ、なんでもない
……なんでもないの

はぁ…
ゴーン
ゴーン
はっ
はい
……ぬえ？
ムラサ―

……
ちゅ
ん…
ドン
あ
あれ？
んう
んっ
ふぅっ
ごろ

ぷは

どうしたの、誘ってくるなんて

ぐっ

嫌なんじゃなかったの？

ん。

……

——私が、ぬえをこうやってかわいがらないと駄目になっちゃったの

分かってくれたのね……

もう、慣れたっ

ぎゅ

わ、私も――
ムラサが私のこと好きで、
してもらえるなら
むしろ嬉しいって、
思うの……

あら、
すっかり首輪を
つけられちゃって……

かわいい声を
聞かせて、
かわいい顔を
見させて
全部、
私だけのもの

……そのかわり、

ごつん

私だけを、
かわいがってね

我儘な子

いっぱい気持ちよくしてあげるから

思う存分甘えてくれないと、いやよ、ぬえ

……わかった

愛して、ください

はー
はー
ムラサ、

なあに

あのね……

ぎゅ

今日は——
ずっと、指でして

きもちいいのも
いいけど
やっぱり、ムラサを感じたいの……

ふふ
ほんとに、かわいいわ、ぬえ

いちばん
じゃないのは
分かってる、
むらさ
す

好き、
大好き

私も、
好きよ

好きの意味が
違うのも、
知ってる、

ただの
愛玩動物かも
しれない、

この想いを
利用されてる
だけかもしれない、

でも——

ずっと――
いっしょに、
沈んでね

――うん

――幸せになっても、
いいよね？

ムラサとぬえ、
なんだか前より
すっかり仲良くなったわねえ
あら、
あいつらは実は
前からあんな感じですわ、聖様

反抗期が終わったのかなあ

反抗期？

ムラサも、千年前と比べると随分元気になっちゃって……嬉しいわ

一輪と雲山とぬえのおかげね

残念だけど主におかげだと思いますわ

初稿 私の功績もありますが

ほんと、よく可愛がってたから、ぬえのこと

自分で世話するとか言ってぬえを私とはあんまり遊ばせたくなさそうだったくらいで

そうねえ……あの子があそこまで懐くのだから、そうなのでしょうね

でも、動物みたいな言い方ね？
……
なんというか、うまくいえば……
友達というか……
寝ぼけてるの？

おわり

アニマルセラピーはこわい。
妖怪で恋を扱う少女というと、迷路をぐるぐるさせてくるフランドールスカーレットちゃんとか、
殺戮をころころしてくる古明地こいしちゃんとかしかいないので、
妖怪の恋は頭おかしい特権なのかなとか思っていました。おてんば恋娘がいらっしゃいました。
ま……まあ曲名やし……。

『拘束具と沈む』
初版:2015/5/10(博麗神社例大祭12)
発行:ひそな(スアリテスミ[http://suoiretsym.com/])
印刷:丸正インキ様
原作:東方Project/ZUN(上海アリス幻樂団)

この作品は東方Projectの二次創作作品です。
本書の無断転載、アップロードを禁じます。